

2019 10/22

No.2101

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



箱根山（箱根町）の噴火警戒レベル引き下げに伴う大涌谷園地の再開に向け、町などは9日、高濃度の火山ガス発生を想定した観光客の避難誘導訓練を実施した。



## contents

視点・点描	3
旅の楽しみ 諦めない	
農業	4
TPPこそ最大の「敗北者」 日米貿易協定決着の意義	
社会	6
過熱化するペット葬儀業界 家族に「昇格」したイヌやネコ	
経済	8
外貨での資産運用の注意点 人生100年時代のマネー設計	
くらし2019	10
年金は大丈夫？	
アジアの風	12
制裁緩和待つ中朝国境の街	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

◇2019年11月定例講演会  
11月18日(月)午後1時30分～3時  
よこすか平安閣6階「セレネ」  
講師は環境大臣兼原子力防災担当大臣の小泉進次郎氏  
演題は「『日本らしい日本』～ないものはない～」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ ([www.kanagawa-seikon.jp](http://www.kanagawa-seikon.jp)) に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045(226)2121。

# 視点 点描



## 旅の楽しみ諦めない

旅行業界では近年、「ユニバーサルツーリズム」が提唱され、身体障害者向けツアーが少しずつ増えてきた。誰もが旅を楽しめる環境づくりは、共生社会に向かう望ましい潮流だろう。

その中にもあって、逗子市に住むソフト開発会社「ロジナス」社長、山本啓一さんが始めた旅行事業は珍しいはずだ。それは自閉症

の子どもがいる家族を対象に海外ツアーを提供する事業である。

2017年11月、県に旅行業登録。旅行会社に勤務経験がある妻典子さんが奮闘し、昨年12月に初のグアムツアーを行い、重度〜重度の自閉症の子を持つ4家族11人が海外の空気を満喫した。事業化の動機を知るには、家族の境遇を理解する必要がある。自

閉症の子は特性ゆえに待つことが苦手だったり、慣れない環境でパニックを起こしたりすることがある。ところが、しつけの問題と誤解され、外出先で周囲から冷たくされたり、心ない言葉を浴びせられたりした経験を持つ家族は多い。

JTB総合研究所が17年に行った家族対象の調査で希望する外出頻度を尋ねたところ、6割が「外出したくない」だった。社会の理解不足やサポート不足が外出や旅行をためらわせる一因でもある。

「家族は旅行を諦め、企画する旅行会社もなかった。でも、だからこそ取り組みたかったんです。自らも成人を迎えた自閉症の長男がいる山本さんは、「育児の悩みや苦労が多い家族に笑顔になってもらいたい」と意気込む。

こだわるのは参加者が安心してできる環境づくりだ。長時間のフライトや入国審査待ちで子どもがスト

レスを感じないよう、航空会社や現地の空港に希望座席の確保や待ち時間短縮などを働き掛ける。注意欠陥多動性障害（ADHD）との重複や発語の有無、こだわりの強い物事など、それぞれの特性もホテル側などに丁寧に伝える。初ツアーでは、入国審査での指紋認証のサポートなど期待以上の配慮を受けることができたという。

15歳の長女と参加した母親が3泊4日の感想を聞かせてくれた。

「海外は一生行けないと思っていた。楽しかった。一方で『障害の娘がいるからできない』と、勝手にいろいろ制限をかけてきた自分にも気付かされた。もともと私も食欲に人生を楽しもうと思いましたが、力強く、晴れやかに語ったね。山本さんが乗り出した事業の意義が分かった気がした。

（神奈川県新聞社編成部長

高本 雅通）